コ　ス　モ　ス　　（古谷能富子さん撮影）

いつまでも安心して住み続けられる地域を

・今になって思うこと　並河 秀行　2
・自治体学校 in 金沢に参加して　山崎　匡　4
・東山何でも探検隊 ―東大路と四条通を歩く　榎田 基明　6
・交流の広場　8
・行ってきました、NPT ニューヨーク行動　岡本やすよ　9
・私の本棚　川原 一行　10
・カメラ探訪(22)　古谷能富子　11
・事務局通信　12

くらしと自治 京都
（社）京都自治体問題研究所
TEL(075)241-0781 Fax(075)708-7042
E-mail：kjitiken@red.email.ne.jp
発行人　中林　浩

（「住民と自治」９月号付録）

今になって思うこと

元京都府職員、現 百姓を楽しむ　並河　秀行

１９３０年３月生まれ、歳重ねて８５才になつた。これを日本では古くから寿命という。　ところが無神経にも後期高齢者というレッテルを考え出してあらためようともしない。それを踏襲するアベ政治は高齢者への冷たさを日々強めている。このアベを放逐し、命を寿ぐ政治への転換を念ずるや切である。

府立第三中学校（山城高校の前身）の二年生になった間なしに学徒動員令が下がり、７月７日東本願寺に集合して愛知県半田市の中島飛行機半田製作所で働くことになった。海軍の高速偵察機「彩雲」の組み立てが急がれていた。

この年の１２月７日、東海地方を中心にＭ８．０の大地震が発生、報道管制のためその全容が明らかになるのは戦後となるが、煉瓦積みの工場の部分が倒潰して、一年上級の１３人が亡くなった。家族の方々らの想いは如何ばかりだったか今も萬感胸に迫る想いである。

この時以降の工場の操業率は大巾に低下し飢餓状況は一段と深刻になった。主食は木材を鋸で挽いたおがくずに数％の小麦粉がまぜられ、食すれば栄養があるというが、到底たべられるようなものでなかった。

副食は北海道の学童がとったイナゴを湯がいて乾燥させたものが、乾燥不十分のためケリアシの部分しか食べられなかった。その他の副食としては顔が写るような味噌汁だけだったと思う。何とか餓死を免れたのは、家からの金品による支え、周辺農家への買出、半田市内の飲食店での雑炊、体調不良の者に休養を兼ねて働かせる付属農場への派遣、食券の偽造、泥棒（にわとり・にんにく・みかん・・・・・）などのお蔭といえる。

ビタミンＣ不足で口内出血が続き、終戦の翌年になってようやく止まった。

食糧不足は、戦後も数年開戦中以上のきびしさであった。

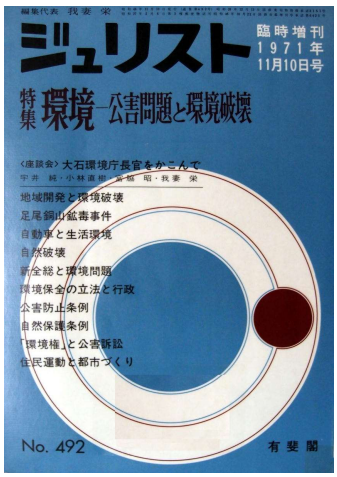
世界中どの国であろうと食糧自給率の向上は国策の重要な柱の一つでなければならないと思う。食料品を商品と考えてはいけない。ＴＰＰ参加など愚の骨頂である。
１９６９年のいわゆる京都食管の名の政策立案に参画できたのは幸せであった。

１９６０年ごろであったろうか、新しい農業基本法が公布され、国の補助事業としての農業構造改善事業が各府県で積極的に取り組まれた。府の担当係としては、農業構造改善という骨を抜いて階層を問わず経営改善に役立つ金として利用していこうということで府全体の了承を得た。国や他府県からは白い眼をむけられながらも我われの心は熱かった。ところがある日、友人が「あれはイタリーのトリアッチや」と言う

とりまっせと言ってきた。トリアッチという名前も知らなかったし調べたこともないが、友人の一言でトリアッチという名前だけは今も覚えている。

国際的な大物らしき人と並べていただいて感謝の他ないとだけ言っておこう。面と向かって議論しない運動家はきらいである。

府の公害行政の担当組織は衛生部環境衛生課の一つの係りであった。それが全国で一番最後の公害防止条例制定に踏み切ると言うことで急拠１９７０年に１３名の公害課を発足させた。初代の公害課長に任命された。　条例の内容等については法令の専門誌ジュリストの公害防止条例特集号を是非お読みください。



今もこの条例がいきていたら公害事象のなかに放射能を加えることが可能なようになっているし、大きく反原発の運動を激励したことだと思う。

公害問題についての知事の諮問機関として公害対策審議会の果たされた役割は大変なものであった。学者を中心にそれぞれの分野の専門家の超一流の方々が、府が提出したタタキ台について意見を述べられ、それにこちらから再説明・反論することも多かった。その根底に民主主義がどっかり根を下ろしていた。

これはすばらしいことであった。毎回出席する職員は成長した。組織も強くなった。

労働組合運動を続けていれば成長するとやら、それは自治体の議員なら何とかと言うことにとどまる。首長をとるための体制づくり、すなわち、自治体問題研究所の体制づくりが急がれる。各部門の超一流の学者・研究者の協力グループをつくる、現に職場で行政マンとして働いている人々（２０名位？）のグループをつくる、この二つが自由闊達に議論することから事が始まるのではなかろうか。

各自治体がいろんな施策を打ち出す。それを隣近所や親しい人がどう受けているかを聴くことを自らの習慣としていくことは自分の感度を研ぐ上で良い事だとおもう。

えらそうなことを書きましたが、記憶違いやあやまちも多いと思います。お許し下さい。

並河　秀行氏の略歴

昭和24年より京都府職員として奉職され、その間、農地開拓課長、初代公害課長、初代公害対策室長、亀岡事務所長、東府税事務所長、総務部次長、総合資料館長等を歴任されました。

自治体学校 in 金沢に参加して

山崎　匡（日本共産党宇治市会議員）

2015 年 7 月 25 日～ 27 日に金沢で開催された自治体学校に、初めて参加し、自治体問題研究所にも入会しました。

自治体問題研究所は名前だけは様々なところでお聞きしていたのですが、実際にその全国版と言える自治体学校のことについては、詳しく知りませんでした。

開催地の金沢は公共交通（路線バス）がしっかりと整備されており、「市民の足を守る」という自治体の姿勢が見て取れました。開催中も臨時バスが出るなどしっかり運営されていることがわかりました。

1 日目の記念講演では「地方自治の危機と再生への道　－　沖縄と憲法問題から考える」と題して、85 歳の宮本憲一さんがお元気な姿で語られました。またその内容も、安倍内閣が暴走に次ぐ暴走を重ねて続ける政治に対して、「戦後最大の政治危機」であることを指摘し「翁長沖縄県知事のオール沖縄の活動」を通して、安倍暴走政治の対抗への活路を見出し、本当の市民主体の地方自治体のあるべき姿を話されました。また、パネルディスカッションでは長野県阿智村前村長の岡庭一雄さんが「自治体消滅論」を超えて、平成の大合併に抵抗し、小さな自治体が住民が主体的に地域づくりを担う制度を作り出したことや「住民自身が直接地域自治を担うことで地域の問題と関係する国政問題と向き合う機会が多くなる」という意見を述べられ、大きな町にすべて取り込まれるような自治体連携ではなく、住民の利益を最優先にした形で自治体間の連携を作りだす必要があるというご意見を述べられました。この両氏のご意見を聞き、自治体に関わるものとして感銘を受けました。

記念講演などを通して、国民の声を無視して政治を進める安倍政権が如何におかしいか改めて気づくとともに、憲法違反の「安保法制案」が間違ったものであり、「民主主義」「立憲主義」を壊すやり方に対して、個人・団体問わず大きな反対の声が国民から噴出し、年齢や立場の違いを超えて大規模な抗議活動となって現われていることが、オール沖縄と同様に政治を動かしうるものであることが、私自身の中でさらに明確になってきたように思います。

さらに、自治体に関わるものとして、市民の声だけでなく、市民の直接的な関わりを地方自治体の運営や国政に生かしていくという根本的なスタンスを持つことを確信できたように思います。

初参加ということで、緊張と多少の不安もありましたが、会場に到着してすぐによく知ったお顔と出会うことができ安心しました。2 日目の分科会・ナイター企画、3 日目の全体会など、まとまった時間で目いっぱい勉強することができ、また他地域の方の話など聞くことができ、金沢のおいしい食事も堪能でき、本当に有意義な時間とな

りました。この経験をしっかりと活かすようにしなければと思っています。

話は変わりますが、自治体学校が暑い時期の開催であったこと、今の政治の流れを考えたときに嫌が応にも「戦争」のことを考えざるを得ない状況でありましたので、亡くなった祖母から聞いた戦争体験の話と私の思いを書かせていただきます。

現在、私自身も含めて実際に戦争を体験していない世代にとって遠い過去であるように感じる事も事実です。

私が小学3、4年生の頃、夏休みに浜松の祖父母の所に遊びに行っていたときのことです。祖母から、漢字で書くと同姓同名で、名前の読みだけが違うという仲の良かった友人の話を聞きました。二人は共に豊川の軍需工場で働いていたそうです。戦火が激しくなり工場にも度々空襲がくるようになったので、祖母の親が休暇を申請しました。ほぼ同時期にその友人も休暇申請をしていましたが、祖母は休暇が認められ帰宅し、友人は認められず空襲で命を落としたそうです。

祖母は「自分は海軍工廠で友人は陸軍工廠だった為に、自分は助かり友人は工場で空襲に遭い防空壕の中で亡くなってしまった。」と涙ながらに語ってくれました。
その言葉を聞いた当時は、「お婆ちゃん運良く助かってよかったなぁ。お婆ちゃんが助かったから僕が生まれることができたなぁ。ありがとう。」と言う事ぐらいしか思いませんでした。

しかし20数年経った今、祖母には氏名の漢字が同じと言う偶然の少し運命を感じさせるような友人が死んで、自分だけが生き残ったという罪悪感やうしろめたさがあり、忘れる事が出来なかったんだと言う事に思い至りました。

戦争は兵士だけでなく一般市民を巻き込んで多くの犠牲者を出し、身体だけでなくそれぞれの精神にも多くの癒す事のできない傷跡を残していくものだと思います。

ありきたりですが、戦争は本当に起こすのもそれに加担するのもいけないと思います。私は、「善良な市民だから戦争の責任が無い」とは必ずしも言い切れないと思います。戦争を始めるのは確かに時の権力者かもしれません。でも、その権力者に好き放題やらせている私達にも小さくても責任はあるはずです。

福島原発事故でも同じ事だと思います。情報や世論を操作され知らないうちに事が運ばれるという現在の状況や、真実を報道する力の無いメディアの質の低さも大きな問題です。でも、私達も色々な事に疑問を持ち声を挙げていかなければならないと思います。

最後に自分勝手かも知れませんが、私は戦火にも核(放射能)の脅威にも晒されたくありません。だから、少しでも多くの方達と力を合わせて、住民が主体的に政治に関わり、その声が生かされる地方自治体の政治や国政となるように、声を挙げ続けていきたいと思います。

東山何でも探検隊 ―東大路と四条通を歩く

榎田 基明（京の道と交通を考えるネットワーク事務局長、企業組合Fuu空間計画代表理事）

東山区でまちづくり運動に取り組んでいる住民団体「いいまちねっと東山」では、地域の課題やその対策を考えていくには現場を体感することが大切ということで「東山何でも探検隊」を開催しています。先日（5月24日）、東大路と四条通を歩きました。

京都市は、都心や観光地での歩行環境を改善しようと、四条通（川端通～烏丸通間）と東大路（三条通～七条通間）で4車線の車道を2車線に減らし歩道を拡幅する計画を進めています（四条通整備事業情報、「歩いて楽しい東大路」歩行空間創出事業）。東大路はまだ構想段階ですが、四条通は既に工事が始まり今秋の完成が予定されています。そこで四条通の状況を見ることで東大路の計画について住民の立場で考えようという趣旨です。

最初に東山五条から清水坂を京都市清水坂観光駐車場まで登りました。

清水坂に入ってくる観光バス

朝9時を少し回ったところでしたが既に観光バスが40数台駐まっていました。気候が良いとはいえ観光客の出足は少し落着いた時期ですのでどんどんバスが入ってくるという状況ではありませんでしたが、狭い清水坂を歩行者を1mもない歩道に押し込めて大型バスが行き交うのはやはり良くありません。ただ坂道なので歩くのは高齢者にはかなりつらいので代替手段が要ります（代替のアイデアは土居靖範・他『LRTが京都を救う』（2004年つむぎ出版）をご覧下さい）。

東大路は日曜日の午前でまだ空いている時間帯ということもあって渋滞よりも歩道の状態が話題になりました。松原通～五条通間では歩道が外側にひどく傾斜しています。参加した地元のおばあさんは「体調が悪い時はバランスが取りにくいので足を挫きそうになる」と言っていました。

大きく傾いた東大路の歩道（東山消防署付近西側）

なんでもこの区間は市電が走っていた時の敷石の上に舗装を重ねているので車道が異常に高くなっていて、松原通以北は敷石を取り払ったので比較的フラットになっているという話しもあります。真偽の程は確認が必要ですが…

さて、祇園からはバスに乗り四条通の混雑を体験！のはずが予想に反して車が少なく、10分とかからず四条烏丸に到着。そこから四条通を祇園方向へ歩きました。

広いところでは歩道の幅が倍になります。工事中で真ん中に柵が立っていたり路面が凸凹していましたが、歩きやすくなっていることは明らかです。いつも混雑する新京極・寺町通との交差点などは大きく改善されそうです。

歩道幅が倍になる新京極・寺町通交差点付近

バス停は四条河原町と四条高倉の2カ所に統合されて3台ずつ停まれるようになります。ただ全区間で歩道が倍になるわけではなく、街区毎に1カ所ずつ停車スペースがつくられます。

1度に3台停まれるようになるバス停

街区毎の停車スペース（富小路～柳馬場間北側）

工事は進んでいますが、完成時、バス系統は変更されるのか？停車スペースは荷捌き専用なのかマイカーも停まれるのか？タクシーの降車はどうなるのか？（乗り場は西行きは高島屋前、東行きは大丸前だけになります）通過だけのクルマを規制しないと混雑するのでは？等々、疑問や課題はたくさんありますが、歩行者優先に方向が変わりつつあることは歓迎です。

交通問題に取り組んできた京都の市民・住民運動は1980年代後半から四条通を歩行者と公共交通だけのトランジット・モールにすべきと提案してきました。クルマを走りにくくすることに対して日本では大きな抵抗がありますが、都心の自動車交通量の削減が都市再生の要であることは国内外の多くの例で実証されています。京都の市電を守る運動を経験した市民・住民運動はいち早くこのことに気づいていました。

また、沿道商店の組合である四条繁栄会も、実態調査で来客の圧倒的多数が電車やバスできていることがわかり、10年ほど前から歩行空間の拡大を検討してきました。その実現に向けたステップがようやく一つ進みそうです。

一方、四条通でも鴨川より東の祇園では歩道拡幅は行われません。観光客も多い地区ですのでいずれ歩行者空間を広げることが必要だと思います。

祇園の四条通（今回、歩道拡幅はされない）

※企業組合Fuu空間計画ホームページのブログより転載（http://fuu-sd.com/?p=423）。

交　流　の　広　場

戦争法案反対！
政権追い詰める運動の拡がり

ＮＨＫ８月の世論調査で内閣支持率が更に低下し、国民の批判で安倍暴走内閣はますます追い詰められています。しかし、あくまで戦争法案の強行を目指す安倍首相の暴走を止めるため、様々な取り組みが各地で提起されていますのでご紹介します。

● 緊急学習会「戦争法案で市民生活はどうなるか？」

と　き　8月26日（水）午後7時～
ところ　職員会館かもがわ
講　演「戦争法案の危険性と市民生活」
講　師　奥野　恒久氏
（龍谷大学教授・京都憲法会議事務局次長）
主　催　安保破棄京都実効委員会・
京都市職員労働組合・京都教職員組合

● 平和安全保障法制の
今国会での成立NO！　緊急府民大集会

と　き　8月29日（土）午後2時～　開演
ところ　円山公園音楽堂
講　演「平和安全保障法制の問題点と課題」
講　師　小林　節氏（慶應義塾大学名誉教授・弁護士）ほか
京都弁護士会主催、日本弁護士連合会共催（予定）

● 8月30日（日）戦争法案反対統一行動
● 9月13日（日）声を上げよう大集会　円山

■ 京都北部各地の「戦争法案阻止」集会 ■

●宮津与謝集会

と　き　9月5日（土）午後1時30分～
ところ　宮津市島崎公園グランド
主　催「戦争する国にさせない実行委員会」

●舞鶴集会

と　き　9月6日（日）午後4時～
ところ　JR東舞鶴南口公園
主　催「憲法平和ネット」

●福知山集会

と　き　9月6日（日）午後4時～
ところ　JR福知山北口公園
主　催「戦争立法NO!福知山アクション」

●京丹後集会

と　き　9月13日（日）午後2時～
ところ　峰山総合福祉会館

★☆ 全国の取り組み ☆★

● 戦争法案廃案！安部政権退陣！
8.30国会10万人・全国100万人大行動

と　き　8月30日（日）午後2時～
ところ　国会議事堂周辺ほか
主　催　戦争させない・9条壊すな！
総がかり行動実行委員会

＜再掲＞**第2回全国都市・敬老パス交流集会**
と　き　9月5日（土）午後～6日（日）午前中
ところ　職員会館かもがわ
連絡先　敬老乗車証守ろう！連絡会
（宮内：090－2017－4686）

京からふるさと再生（36）　　城陽　岡本やすよ

行ってきました、NPTニューヨーク行動

2015.4.25～5.2

成田～ニューヨーク～ボストン～成田

日本原水協代表団 1,058 人（京都 50 人）が参加。4 月 26 日（日）午後のパレード（1 万人の参加）の後、署名 6,336,025 筆（港湾ストで発送できず参加者が運搬）を提出。署名活動、核兵器いらない女性の交流会、国際シンポジウムに参加、ボストンでは平和活動家との交流をしました。活動家は、平和・ＴＰＰ・貧困・環境など、運動することがいっぱいあると言っていました。私たちと同じです。ニュースでは聞こえてこないけれど、志が同じ人々がいるのは心強いです。

会議は核兵器の保有国と非保有国とが対立し、中東の非核化を巡り全体の合意を得られず、成功しませんでした。けれども核の非人道性に対する認識と平和利用への疑問はひろがりました。国連の原爆パネル展は「核のない世界へ　ヒロシマ・ナガサキのねがい」50 枚を展示。福島の原発事故が「原子力の平和利用の陰で」と題して展示されていました。ボストン美術館でも福島の写真展を地震・津波の様子とともに展示していました。NPT の問題点の一つ、核の平和利用＝原子力発電に大きな疑問が投げかけられています。

ニューヨークは物価が高く（税 8.875 %）、朝は近くでコーヒーと果物（10 ㌦位）、昼は食堂（15 ㌦位）、夜はレストランや持ち帰り（15 ～ 30 ㌦）とカードがないと両替に追われそうでした。地下鉄は思っていたよりきれいで、便利。安いチケットを買い、正規運賃 3 ㌦を 2 ㌦で売る人がいるのにも驚き。ニューヨークで暮らす友人はレンタサイクル（24 時間パス 9.95 ＋税、7 日間パス 25 ＋税）を利用すると言っていましたが、カードを使うそうで、説明がわからないので利用できませんでした。街で見かけた労働者の多くは肌の色が濃い人々。今も移民が続いているらしく、タクシー運転手はコンゴから来たと言っていました。

8 月の原水禁世界大会では、核兵器廃絶の運動はさらに進んだように思います。戦争法案のおかげで、国民の意識は高まりました。テレビ番組も「核の悲惨さ」「反戦」が例年より少し増えたように思いました。新たな技術と調査のおかげで、よりリアルな画像が再現出来るのは、想像し、苦しみ・悲しみを共有するために、怖くても辛くても「見てほしい。知ってほしい」という被爆者の声ではないでしょうか。核兵器禁止条約の発効に向けて頑張りましょう！

私の本棚　書籍紹介コーナー（自薦）　　**川原　一行（元宇治市会議員）**

『飢死した英霊たち』

（青木書店　著：藤原彰　2,500 円＋税）

いま「戦争立法を許さない」という日本国民の大きな闘いが展開している。みんなで力を合わせ、この極悪法が再び天下に「日のめ」を見ないように全力をあげたいものである。

餓死した英霊たちに「うえじに」と著者は記している。この意味は深い。著者は中国戦線に将校として従軍し、中支で九死に一生をえて、本土決戦のため帰国したという経歴をもっている。一橋大学で長く近現代史の教授をつとめられた故人である。

「はじめに」－戦没者の過半数は餓死だった。と「むすび」に本書の要約がされている。

第二次世界大戦の戦没者は310万人。その内、軍人軍属の死者数は230万人とされている。日本軍の過半数が名誉の戦死ではなく餓死であったという事実であり、「靖国英霊」の実態は飢餓地獄の中での野垂れ死にだったのである。戦死よりも戦病死の方が多い。これが、海外の戦場の全体にわたって発生したことがこの戦争の特徴である。

第一章：餓死の実態では、①ガダルカナルの戦い。無謀な数次の陸軍投入で大量餓死をだした。②ポートモレスビー攻略戦。四千メートル級の山越えをわずかの食料をもっての攻略戦で失敗。③ニューギニア本島での戦いは広大な現地を知らない大本営の作戦失敗。④インパール作戦・三千メートル級の山越えでビルマからインドへ攻め敵の補給路を断つ作戦・・・敗北と退却で大量餓死を出す。⑤孤島の置きざり部隊・全く補給無し。⑥フィリッピン戦は約50万人の戦没者をだした。ここでは多くの人々が住み住民への加害行為（100万人の死者）が特徴である。⑦中国戦線での栄養失調症による大量死。⑧餓死者の割合は約60％強である。

第二章：何が大量餓死をもたらしたのか。①補給無視の作戦計画、②兵站軽視の作戦指導、③作戦参謀の独善横暴。

第三章：日本軍隊の特質　①精神主義への過信・火器を軽視した白兵主義。②兵士の人権・軍紀と服従・人権無視の生命の濫費で勝利を購う。③兵站部門の軽視・輸送部門を差別扱い。④幹部教育の偏向・幼年学校あがりの要職独占とその弊害・精神主義の教育。⑤降伏の禁止と玉砕の強制。他国の軍隊と比べ、陸軍は歩兵、海軍では戦艦が尊重され、兵站や輸送・補給や衛生に関する部門は軽視され差別されていた。これは餓死と無縁でないといえる。捕虜の否定と降伏の禁止・・・これでは餓死か玉砕以外に選択なしである。

我々はまちがった戦争から教訓を生かし、未来を志向すべきと思う。ぜひ一読を！！

カメラ探訪 22　　古谷　能富子

現地分科会 能登の地域おこし

自治体学校現地分科会「能登の里山里海を活かす地域づくり」に参加しました。

金沢での全体会終了後、奥能登珠洲市の宿泊先へ移動しました。バスの中では、テレビ金沢で放送された「シカとスズ～勝者なき原発の町」という VTR を視聴しました。能登で進められた２基の原発建設の記録で、過疎の町に持ち込まれた「原子力ムラ」の策動と分断に翻弄された住民の苦悩が描かれていました。原発の建設を粘り強い反対運動で阻止した珠洲の人たちのなかにも、賛成派、反対派に分断されたことで深いしこりを残しているということでした。

翌日は、朝から珠洲市の原発反対運動を進めてこられた落合誓子氏と、先代が始めた製炭業を継いで植林に取り組みながら地域づくりをする39歳の大野氏のお話。その後バスで移動しながら、旧のと鉄道のトンネルを酒蔵に改造した「のと線遺産活用倶楽部（宋玄酒造）」の見学。次に「日本の里100選」に選ばれた輪島の金蔵集落での自然と伝統を活かした取り組みを村のお寺の本堂で聞き、里山の幸の昼食をいただきました。

そして最後は、平成23年に世界農業遺産に認定された白米千枚田へ行きました。「白米千枚田愛耕会」の堂前氏から、地元農家の高齢化で耕作が維持できなくなった田を「オーナー制度」や JA,自治体の協力を得てボランティアを集め耕作協力をして、千枚田の景観を守っていること、冬の間は棚田の畔に太陽光発電 LED 電球を2,100個設置してライトアップする取り組みも始め、年間を通じて観光名所となっていることを聞きました。夏の日差しがまぶしい青い空と海を背景に、傾斜地にうねうねと不規則な曲線を描いて一面に千枚田が続いています。「日本農業の聖地」と冠されていますが、ここに棚田を一枚一枚作った江戸時代のお百姓さんの熱意と、300年代々守り続けてきた能登の農家の方々の苦労が、この絶景の価値を他と比べることのできない物に高めています。

各地の「地域おこし」の熱い思いに触れる分科会でした。里山の美しい景観が、高齢化と闘いながら暮らす方たちの頑張りで守られていること。そして、これは今回訪れた能登だけでなく、日本の農漁村のどこにも共通する現状なのだと強く感じました。「日本の国土を守る」というのならば、軍事力にお金を使うより、地方でコツコツ頑張っている方が希望を持てる政策を国が進めていくことこそ、待ったなしの課題だと思いました。

事　務　局　通　信

●第２回理事会報告（8月4日開催）

大学や自治体、地域から戦争法廃案を求める闘いの広がりが交流された後、池田事務局長より京都市内の学校が 67 校から 17 校に統廃合されるなど学校リストラが進められている現状が報告されました。

「原子力災害問題研究会」はブックレット「原発再稼働？どうする放射性廃棄物－新規制基準の検証－」を発行し活動を終了すること、「地域医療政策研究会」は京丹後市の地域医療の調査研究にあたり、現地との組織的な対応について調整を図ること、「富裕層観光とまちづくり研究会」が今年度第 7 回まで開催されたことなどの研究会活動の報告、図書普及事業や会員・読者の増減、財政状況など、第1回理事会以後の取り組み報告を承認しました。

調査研究事業・学習教育事業の今後の活動については次のとおりです。

■ 市民公開講座

①「再稼働問題を考える学習会」
　８月６日実施済み　ハートピア京都

②「学校統廃合とまちづくり」（仮題）
　11 月６日　教文センター
　（教育センターと合同で開催予定）

■ 京都自治体学校の開催

・北部自治体学校　10or11 月頃開催予定
　200 人規模　北部の中心課題・原発問題
　講師：立石雅昭氏（新潟大学名誉教授）
　　市川章人氏（日本科学者会議会員）

□ 第3回理事会は9月15日開催です。

ツキイチ土曜サロン

＜お気軽に参加ください＞

９月１９日（土）午後２時～　研究所

題材：岩波新書「社会的共通資本」（宇沢弘文著　00．11　800円＋税）

報告者：久保 建夫 さん

「自然環境、社会的インフラストラクチャー、そして医療や教育などの制度資本から構成される社会的共通資本は、人間が人間らしい生活を営むために、重要な役割をはたすものである。これらは社会の共通の財産として社会的に管理していこうというのが宇沢先生の考え方だ。社会的共通資本は、市場的な基準や官僚的管理によって支配されてはならず、社会的な基準に基づき、それぞれの職業の専門家によって、専門的知見に基づき、職業的規律と倫理にしたがって管理・運営されねばならないとしている。

宇沢先生の提唱された「社会的共通資本」の概念は、政策の立案や選択のための重要な制度的、政策的分析の基盤を与えるとともに、新たな時代を切り開くパラダイムとなっているといえる。ただし、現実の社会において、それぞれの社会共通資本の管理の在り方をどのように設計していくべきかについては、今後の重要な課題である。」（京都大学名誉教授・松下和夫、[現代の理論] 第3号、DIGITAL―2014冬号 VOL.3、「宇沢弘文教授を追悼する」）